

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800883		
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム滝原		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム滝原		
所在地	三重県度会郡大紀町滝原830番地1		
自己評価作成日	平成22年2月17日	評価結果市町村提出日	平成22年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472800883&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの雰囲気全体に和気あいあいとしており、例えば食事の時にその状況がよく理解できた。また毎月職員会議が行われており、その場で事業所としての取り組み方、カンファレンス、介護計画、研修課題等が率直に意見交換され具体化されている。さらに運営推進会議は関係者との連携の下に2ヶ月に1回、着実に開催するように努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を常に頭に入れて仕事している。	理念は短文でまとめているので、各リビングに貼ったり、職員の名札の裏に書いたりして職員がいつでも確認できるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町を美しくする運動や地域の防災訓練に参加している。地元の中学生の職場体験学習、保育園児の慰問、公民館活動の人達の踊りや大正琴の演奏、地元商工会婦人部からのタオル等の差し入れをしてもらっている。	神社の祭りや敬老会等の地域行事があれば参加の働きかけがあり、それに事業所の行事として参加している。地域防災訓練は地区集会所の役割として実施されており、職員がそこへ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に何回かのイベントに地域の人ボランティアと、お年寄りを招いて交流してもらって、認知症の人を分かち合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町担当職員、地域包括支援センター職員、老人会役員、民生委員、利用者家族代表で構成し、2ヶ月に1回開催している。その時々現状報告や課題について話し合い運営に活かすようにしている。	2ヶ月毎に定期的開催されている。21年11月は事業所の都合で延期したが、その分は他の月と連続して開催し、洩れのないようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当職員が度々訪問してくれる。随時、役場や地域包括支援センターの職員と連絡をとっている。来年度は町内での看護職員の研修会を4回に分けて開いてくれることになっている。	町健康福祉課職員が適宜訪れ、情報を提供してくれたり、意見交換をしている。事業所で分からないことがあれば、町を訪問したり電話をしたり、始終関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束につながるような対応はしないと日頃から努力している。一人だけ夜はつなぎパジャマを使用しているが、マニュアルに基づき職員間で議論し、家族にも了解を得ている。昼はいつも玄関が空けてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者さんが不安にならないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を経験していないので分からない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の場合は十分な説明をして理解してもらっている。他の病院より退院後の解約の場合も、医師と後の計らいを充分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の代表が運営推進会議に参加し、家族等の意見が反映出来る様にしている。面会時又は電話等で意見・苦情を聞くようにしている。県社協の苦情や相談のパンフレットを窓口においている。	昨年の外部評価で、苦情処理の方法について提起されたので、家族に分りやすいよう玄関にパンフレットを置き、重要事項説明書にもその事項を入れ、家族にも説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月一度開いて職員の意見を聞き、必要のある場合は役員会にかける様にしている。	職員会議が定期的実施されている。昨年は自己評価を幹部のみで実施・記載したが、今回から職員会議の場で議論して記載するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の勤務状況は把握しているが給与に付いて隔てることはないがその年によって特別賞与を支給している。今年度からの介護職員処遇改善交付金を受ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は介護福祉士の受験に3人の職員が挑んだ。本年度は町内に於いて職員の研修が4回計画されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は開設者研修会に於いて取り組むことになった近隣の同業者との現場体験で交流が出来るので、これを機会にサービスの質の向上を図って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えの強くなる方については時間をかけて聞くようにしている。希望や不安等を聞き出し安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを大切に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談は地域包括支援センターが多く直接家族からの相談は殆どないが、あれば包括センターと連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを汲み取りながら押しつけない関係を作る努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子を伝え家族との関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添うように努めている。	関係継続の状況は、利用者の状態によって違ってくる。東棟はやや重度の人が多く外出しにくい。西棟は元気な人が多く、個別ニーズに応じて出かけるようにしている。墓参は主として家族が連れ出している。時には出身地の人が来訪してくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に声かけをして共同作業をもらい孤立しないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも今まで同様いろいろ話を聞かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を尊重している。	利用者本人からは何をしたいかを言ってこないで、根気よく話しかけることにしている。毎週水曜には、東西両棟と一緒にレクリエーションをし、興味を引き出すようにしている。	利用者本人が何も言わない時の対応には苦勞されているが、利用者本人が言わないからこそ、その気持や意欲の引き出し方に一層の工夫と努力をされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、日々の生活、職員との連携面等などの段階で詳しく聞き取りを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌に記録し、申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向をよく聞き、話し合い、また職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	職員会議でカンファレンスを実施しているが、その場で3ヶ月毎に利用者順にモニタリングをし、介護計画を検討している。介護計画は家族来訪の都度に説明しているが、来訪のない家族には手紙に同封している。多くの家族が毎月来訪している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌に詳しく記入し、見直しを活用している。記録にはキーワードを題に記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて出来得る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する。近くに小公園があるので季節に応じて楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望に応じ適切な医療を受けられるよう支援している。	多くの利用者が入居前からの主治医に受診している。通院は家族が対応する人、職員が同行する人さまざまである。理事長が開業医のため、入居後理事長に受診する人もある。定期健康診断は毎年理事長が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームにも看護師がいるので何時でも相談にのってくれている。又、地域の掛かり付け医院の看護師も気軽に相談出来る関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は出来るだけ足を運んで、病院関係者との情報交換を行って、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えようとしている入居者については、本人や家族と話し合いながら事業所で出来ることを十分に説明して、方針を共有して行く。そして主治医と共に支援に取り組んで行く。	家族には契約時に、最後まで対応ができないことを説明してある。実際の対応としては理事長(医師)の指示に基づいて、可能な方法で取組むようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回訓練は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。	毎年6月、11月に消防署の立会い、指導の下に避難訓練をしている。11月には夜間想定訓練も行った。救急救命訓練は計画中有である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重を大切にしてプライバシーの確保の徹底を行っている。	人格の尊重に関する対応にはいつも注意している。しかしマニュアルはなく、職員全体の合意を得た取組みには至っていない。	人格尊重とは何か、プライバシー保護とは何か、職員全体の理解と認識が得られるようマニュアルを作成したり、研修を重ねる等、今後の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見決定できない利用者に関しては表情や行動からも読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、その人の生活パターンに配慮しながら個別性ももてる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保ち気持ちよく過せるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じた作業をしてもらっている。	東棟、西棟別々にメニューを作り、調理をしている。症状が進んだのか、自分から意見を言ったり、調理を手伝う人がない。職員中心にやっているが、時には買い物や後片付けを手伝ってもらえる。誕生会のメニューは本人に聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に声かけをして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ハミガキや洗剤にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	不愉快な思いをされない様一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜トイレに誘導している。	東棟の人はみなりハビリパンツ、紙パンツを使用している。中には排泄感覚がなく、漏らす人もある。西棟を含め、それぞれの排泄パターンを把握して、本人の気持ちを汲みながらトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬にたよらず、食事に気を配り便秘にならないように気をつける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声掛けし本人の希望にそって入浴を行っている。	西棟の人は皆が毎日入浴し、職員が見守っている。東棟の人も多くは毎日入浴しているが、1日おきの人が2人いる。また東棟では着替えや洗身等に介助を要する人が多いので、その状況に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる様冷暖房の調整や湯たんぽ、加湿器により安心して休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認して間違いのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた手伝いや行事等に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折り折りの自然にふれあう機会を設けている。	東棟、西棟ともに外出への声かけをしている。しかし東棟では断る人がよくある。それでも事業所行事として行う花見等は全員で出かけるようにしている。個別の外出では、理髪に行く人が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活け飾りつけなど工夫している。	折り紙、貼り絵、写真等が工夫を凝らして壁や窓等に貼ってある。アイデアは職員が出しているが、簡単な細工物は利用者が作り、飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを置いたり、自由に行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家電等を置かれている。	家族の写真を飾ったり、好みのもの、使い慣れたものを部屋に置いている。東棟では症状の重さのためか飾り物、置物等が少ない部屋が目立った。中には室内を散らかす人もあり、制約せざるを得なくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が使いやすいように配置等を工夫している。		